

今後 10 年を見据えた
高岡市における小中学校の配置の基本的な方向

平成 31 年 2 月 13 日
高岡市教育委員会

○ はじめに

高岡市教育委員会では、平成 30 年 4 月に高岡市教育将来構想検討会議を設置し、小中一貫教育の効果的な推進や望ましい学校の規模と配置等、当面する諸課題について鋭意検討を進めてきた。この間、平成 30 年 11 月に取りまとめた提言の骨子案について、市内 12 の全中学校区において市民懇談会を開催するとともにパブリックコメントを実施し、幅広くご意見をいただいた。これらを踏まえ、この 2 月に取りまとめられた検討会議の提言を基本に、総合教育会議においてさらに検討を行い、未来を担う子供たちの教育充実を図るための小中学校の配置等に関する基本的な方向を以下のとおりとした。

1 学校の望ましい配置と小中一貫教育の推進

今後 10 年を見据えた高岡市における小中学校の配置については、次代を担う子供たちの教育充実の観点から、学校の一定規模を確保するとともに市内全域の配置バランスに配慮する。また、それぞれの再編統合を進めるにあたっては、子供たちの連続した成長を切れ目なく支援する高岡ならではの小中一貫教育を推進する格好の機会ととらえ、義務教育学校や施設一体型、施設隣接型の小中一貫教育校の開設に努める。小中一貫教育については、学校の立地条件等からそれぞれに一貫教育の形態は異なるが、全ての中学校区において推進することとし、相互に成果を共有し改善に努めることでより効果が高まるよう取り組みを進める。

これらのことから、中学校については現在の 12 の中学校区を基本とし、既に基本的な方向を取りまとめた五位中学校区に加え、国吉中学校区、高岡西部中学校区、高陵中学校区、伏木中学校区、中田中学校区において、以下に示すように小学校の再編統合を契機に小中一貫教育をさらに推進し、一層の教育充実に努める。

ア 国吉中学校区

国吉中学校区においては、1 中学校、1 小学校であり、国吉小学校と国吉中学校が隣接する立地を活かし、義務教育学校に改編し小中一貫教育を推進する。

イ 高岡西部中学校区

高岡西部中学校区においては、川原小学校、西条小学校、横田小学校の 3 小学校を再編統合し、高岡西部中学校と小中一貫教育を推進する。

ウ 高陵中学校区

高陵中学校区においては、平米小学校と定塚小学校の2校を再編統合し、高陵中学校と小中一貫教育を推進する。

エ 伏木中学校区

伏木中学校区においては、太田小学校、伏木小学校、古府小学校の3小学校を再編統合し、伏木中学校と小中一貫教育を推進する。

オ 中田中学校区

中田中学校区においては、1中学校、1小学校であり、中田小学校と中田中学校を併設し、小中一貫教育を推進する。

[参考]

○五位中学校区の再編統合について

五位中学校区の石堤小学校、東五位小学校、千鳥丘小学校の3小学校については、平成30年8月の総合教育会議での決定により、石堤小学校と東五位小学校を平成32年4月に統合した後、平成36年4月に、五位中学校の隣接地において千鳥丘小学校を加えた3小学校の統合を完了する方向で準備を進めている。

2 再編統合の時期や設置場所

再編統合の時期や統合校の設置場所等については、今後さらに検討を要するが、国吉中学校区と高岡西部中学校区においては次のとおり準備を進める。

ア 国吉中学校区

国吉中学校区においては、義務教育学校への改編について一定の理解が得られたことから、新学習指導要領が全面実施となる平成32年度を目途に義務教育学校に改編し、本市における小中一貫教育の推進校として先導的な役割を担うことができるよう、現在地において開設に向け準備を進める。

イ 高岡西部中学校区

高岡西部中学校区においては、県立高校の再編統合により平成 34 年 3 月に最後の卒業生を送り出す高岡西高校の敷地や校舎を、隣接する西条小学校とともに一体的に活用することとし、実現に向けて関係方面との調整を進める。

3 今後の進め方

再編統合の実施にあたっては、保護者や地域の方々、有識者等からなる新たな学校づくりに向けた協議の場を設け、関係者の理解を得ながら実施計画を策定するとともに、計画の着実な推進に努める。

国吉中学校区においては、平成 32 年度の義務教育学校への改編に向け、開設準備室を設置し、速やかに準備を進める。

検討会議は引き続き実施計画の円滑な策定及び計画の着実な推進に向けて助言を行う。

4 その他の検討事項

再編統合により通学距離が遠くなる場合への配慮や、通学区域の弾力的な運用等について検討する。

少子高齢化や人口減少等が進む中、今後学校が地域の中でどのような役割を果たしていくべきか、様々な分野と連携し、より幅広い観点から検討する。

○ むすびに

学校の再編統合については、地域から学校がなくなることにはいろいろな思いがあるが、子供たちの教育充実のため積極的な取り組みが必要であり、地域の理解を得ながらいち早く実行すべきとの意見を多くいただいた。高岡のこれからの学校づくりに向けて機運が高まった今、後戻りがあってはならない。学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子供たちの成長を支える高岡ならではの夢や希望を育む教育の推進に努めてまいりたい。